

大宮神社の参道



写真■現在の「一の鳥居」付近
平成20年(2008)10月22日の
「まちあるき」にて

かねてよりの思いが実る

大宮神社については、別途編纂しているため、ここではその参道について、とりわけ「一の鳥居」に関する資料をまとめている。

大宮神社は、もと大宮八幡宮といい、応神天皇を祀っている。『撰津志』に南島神社と見えるのは、旧古市村大字南島の地名をとったものである。『難波大阪』

南島村は淀川左岸にある南北に細長い村で、西は江野村、南は京街道を隔てて関目村に接する。北部の集落内を東西に野崎街道が通り、京街道から分岐して淀川堤防に至る長さ十二町・幅六尺の大宮道(六尺道)が野崎街道と交差する。『日本歴史地名大系』

この大宮道が、まさしく大宮神社の参道である。



図■大正13年(1924)測の地図

資料提供：大阪市史編纂所

昔、京街道に面する旧大宮1丁目（現在高殿4丁目）に「一の鳥居」があり、ここより神社の馬場先まで道の両側に松並木があった。

長さ十二町は約1,300メートル、現在の地図で確認できる。

今回、大宮神社のはからいで昔の絵図をお見せいただいた。

絵図には、京街道の七曲がり描かれ、探し求めた「一の鳥居」、大宮道と松並木、一里塚がある。

周辺には、内代村、江野村、参道の先に「南島村」、森小路村が見える。



写真■現在の大宮神社



図■境内古圖

宝物、豊公当時の境内圖書より「一の鳥居」をみる

境内は樹木がうっそうと茂り、四周に清らかな流れがひかれています。橋を渡り神域に入る。右手に御手洗、櫻門をくぐると、二の鳥居、拝殿へと進む。

ここに、大宮神社の本社がある。本社の神門東には影向梅、神門西には亀甲石が、そして本社を取り囲むように、若宮、高良社、鬼門守護社、北斗社、三元殿、七社相殿、御輿殿が見える。

絵図の左下に、神井、絵馬掛所、御供所。拝殿の右側に、神楽所、神官詰所など、丁寧に描かれています。

